

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3370104147 | | |
| 法人名 | 株式会社ピアーズ | | |
| 事業所名 | グループホームシルバーピアーズⅡ | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区門前384番2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 7 月 7 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370104147-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社ブランチピース | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市中区江並311-12 | | |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 7 月 20 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

正看護師・介護福祉士の資格を持つ経験豊かなスタッフが家庭的な雰囲気の中、ゆったりと穏やかに生活をされています。コロナの流行時期にも感染者が出ず、スタッフは日々の健康管理とフェイスシールド・マスクなどの感染対策に努め集団感染に気をつけてきました。現在はご家族との面会や外出などができ、季節を感じて頂けるような外出支援もおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は綺麗に整理整頓され、中庭には家族から貰ったイチジクの木が植えられており、皆で収穫を心待ちにしている。2階の事業所との交流も盛んであり、家庭的で落ち着いた環境が揃っている。優れている点として挙げられるのは次の三点である。まず、毎月一回、利用者の食べたい物を提供したり(希望食)、季節のおやつを作ったり購入したりするなど、食事が楽しくなるように取り組んでいること。二つめは、コロナの収束に合わせて、保育園を訪問したり、近隣の寺に紫陽花を観に行ったりするなど、外出する機会を積極的に作っていること。三つめは、地域交流の一環として事業所で作成した新聞(かわら版)を町内に回覧したり、毎月カレンダーを作成して地元の交番に届けたりするなど、地域との繋がりを大切に、継続していることがある。工夫点は、外部評価がない年に家族アンケートを行うなど、積極的に家族との信頼関係を築いていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果(Ⅱユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「その人らしい生き方を快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします」「心に寄り添ったケア・心を込めた適切なサービスに努め、その心を磨き続けます」「さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれ合いを大切にしながら安心して暮らせる高齢社会の実現を目指します」の理念のもと職員全体で共有したケアを実践しています。 | 共有ホール及び玄関に理念を掲示すると共に、理念に沿った年間目標を共有ホールに掲げ、意識統一を図っている。また、年1回ユニット会議の中で理念について話し合い、全職員で共有・実践に繋げている。新人職員は入社1ヶ月以内に研修の中で指導している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新聞を年3回発行し回覧板でホームの様子を紹介している。交番に利用者が塗ったカレンダーを飾ってもらい励みになっている。保育園訪問では、子供達の園庭で遊ぶ様子を見たり、近くのお寺では毎年紫陽花を見に行かせてもらっている。 | 新聞(かわら版)を町内に回覧し、事業所の様子を伝えたり、毎月カレンダーを作成して、地元の交番に届けたりしている。また、雑巾や刺子を保育園に持参したり、昔勤めていた職員がボランティアで来たりしている。毎年夏になると、近くのお寺に紫陽花を観に行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 家族地域交流会や運営推進会議がコロナ禍で開催されていないが、コロナも5類となつてからは、少しずつ以前の生活に戻りつつある。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回運営推進会議をコロナ禍により書面にて行い、利用者、家族、地域住民、行政の方に活動報告とサービスの取り組みを報告し、ご意見ご要望を返送して頂いていたが7月より運営推進会議が再開する予定である。 | コロナ禍のため、2ヶ月に一回、書面会議を行っている。各委員会で話し合われた内容を取り上げたり、コロナ禍前に参加していたメンバーに議事録を送付し、意見等を募ったりしながら、サービス向上に努めている。令和5年7月から通常通り、運営推進会議を行う予定である。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議でのご意見ご要望を家族、地域の方、地域包括支援センターの方に返送してもらい、まとめたものを事業者指導課に郵送し報告していた。空室ができれば連絡し見学など必要な方があれば、すぐに対応させていただいている。 | ホーム長、管理者が窓口となり、困難事例の報告や空き情報など、何かあればその都度、事業者指導課や地域包括に報告・連絡・相談している。その際、感染症対策や空き巣被害、熱中症情報など、地域の情報を教えてもらっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 現在身体拘束は0である。2か月に1回委員長を中心に職員の意見を聞きながら、身体拘束を行わずに済むような方法などを考え、それを書類にまとめて職員全員に回覧している。 | 2ヶ月に一回、身体拘束虐待防止委員会を開いている。また、年3回、スピーチロックや困難事例、集団指導でもらった資料を基に、研修を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止責任者をもうけ、虐待は絶対にしてはいけない。叩く・つねるだけが虐待ではなく、「待ってください」の言葉も虐待にあたるのだと肝に銘じてケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 毎月研修委員を中心に勉強会の書類を用意し、職員全員に周知している。また、後見制度の書類はいつでも見る事が出来るようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な時間をとり、詳しく説明する事で不安や疑問な点にお応えしている。利用料金、起こりうるリスク、重度化、看取りや医療連携の実施など説明し同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご自分の思いがなかなか言えない方は、日々の生活の中で寄り添いながら思いを聞き出すようにしている。家族の方には、何でも言ってもらえるような関係作りを留意し、運営に反映出来るようにしている。 | 意見箱を設置したり、外部評価がない年に家族アンケートを取ったり、担当職員が面会時や電話連絡した際に、意見等を聞き取っている。出た意見等は、面会方法や外出支援(外食や墓参り等)などに反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のユニット会議では、個々に意見を出し合いながら、統一したケアが行うことができるよう支援しています。 | 毎月のユニット会議や個別面談(年2回目標)時に、職員の意見や提案を聞き取ったり、管理者が日中話かけたりしている。出た意見等は、勤務シフトや勤務時間、利用者のバットの種類などに反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 女性スタッフの為、子育てや介護いろいろな条件の中細かく時間を作り勤務をしていただいています。また、有給休暇も取りやすい環境となっています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人社員には、1ヶ月間マンツーマン体制をとり、介護技術だけでなく、利用者との関わり方についても指導している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 全職員に、自分で興味のもてる外部研修を選んで参加し他グループとの交流や情報交換を行い、サービスの向上に役立てられるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談で生活状況や健康状態を把握し、本人の思いを受け止め、不安な気持ちがないか聞き安心して新しい生活に慣れて頂けるように支援する。また、他者との交流やスタッフとの信頼関係を築けるようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | これまでの家族の苦労や思いを受け止めながらホームでの生活で望むことなどお聞きし、些細なことでも様子をお伝えし、お話をすることで信頼関係を築けるようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族からお話を聞き、他のサービスを利用していたらその情報も含め、状況を確認しながら最善のサービスが出来るように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者の方に寄り添い、共に支え合える関係になれるような場面作りや声掛けをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナが5類になってから面会の機会が増え、中には行き慣れた美容院に行ったり、お墓参りに出かける方もおられた。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前入居していた施設の職員が当施設に来た際、お花や好物の物を持ってきてくれたりしている。 | コロナが5類に移行してから、馴染みの稲荷や園芸店に出かけたり、通勤路を通ったりしている。また、家族とお墓参りや馴染みの美容院に出かける利用者もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 以前入居していた施設の利用者から刺し子をいただいたり、中庭でお花見をした際、隣に座ってお話をしたりしてお互い歳も近い事もあって励みになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設へ移られる場合、今までの生活が継続して出来るように情報提供を行っている。またその後の様子をお聞きしたり、ご家族にはお手紙や電話でお尋ねしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 事前面談で生活状況や健康状態をお聞きし、日々の生活の中で表情や態度、会話を聞きながらその方の思いを引き出せるようにしている。意思疎通が困難な方はご家族から情報を頂き、何かあれば職員の間で情報の共有を行っている。 | 利用前の事前面談や日々の生活の中で、利用者の暮らしの希望等を把握している。在宅から来る場合は、外部サービスのケアマネジャーやスタッフから話を聞いている。把握が難しい時は、利用者の表情や動作で確認・把握している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日々の生活の中でコミュニケーションを取りながら聞き出していき、言葉に出しづらい方は、表情から汲み取るように努めている。ご家族の方からも昔の様子を聞き、生活歴を知ることでも少しでもケアに活かせるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 細かいことや会話の内容などを介護日誌に記録し、職員間で共有するとともに、生活、心理面で出来ない事より出来る事に注目し、その人全体の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族の要望や思いをしっかりと聞き、少しでも日々の生活に活かせるようなプランにしている。、担当者会議で話し合い、ご本人、ご家族の意向に沿った介護計画の作成に努めている。 | 入居が決定した後、希望や要望を聞き、2週間分のケアプランを作成。担当者会議で議論した後、6ヶ月分の介護計画を作成し、3ヶ月毎にモニタリング(見直し)を行っている。利用者や家族、主治医の意見や提案を細かく把握し、とても具体的な計画内容となっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子、状態の変化は個々のケア記録に記入し、職員間での情報共有を行い、介護計画の見直し、評価を実施している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の状態や家族の意向に配慮しながら必要に応じて可能な限り出来る事は取り入れるようにしている。また、通院や送迎が必要な場合は日々の様子が伝えられるように出来る限り柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 昨年は保育園に利用者の方が作った雑巾を持って行ったり、園庭で遊ぶ子供たちの様子を見させていただいた。交番には月1回利用者の方が塗ったカレンダーを届け、繋がりを保っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にご希望の病院をお尋ねしている。事業所の協力医では24時間体制で対応が可能であり、適切な医療が受けられる。必要に応じて受診時に同行し日々の様子を伝えている。週1回訪問歯科での口腔ケアにも力を入れている。 | かかりつけ医の継続は可能であるが、緊急時を含め往診可能かどうか確認している。往診できない時は、事業所の協力医がかかりつけ医となり、2週間に一回、受診している。また、事業所内の看護師と連携し、24時間体制で適切な医療を提供している。家族了承のもと、口腔ケアにも取り組んでいる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の体調の変化、気付いた事があればすぐに看護師に報告し、医師に連絡し早急に適切な処置が受けられるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には介護・看護添書にて日々の様子(転倒・誤嚥防止)をお伝えし、退院が近くなったら、担当看護師に聞いたり、カンファレンスに参加することで、速やかに退院できるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化に伴う意見の確認、同意を本人・家族・医師・看護師・介護職が話し合い安心して納得したケアが受けられるように随時、確認・相談しながら取り組んでいる。 | 入居時、指針及び事業所内で出来ること・出来ないことを詳しく説明し、同意書を交わしている。重度化した場合は、医師が説明し、再度、同意書を交わすと共に、家族等が納得のいく最期を過ごすために、全職員でサポートしている。昨年、看取りに関する外部研修を受けた職員がおり、内容等を持ち帰り、報告書作成後、ユニット会議で話し合い共有している。また、年一回、内部でも勉強会を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時、事故発生時には協力医に早急に連絡し指示を仰いでいる。緊急時のマニュアルを作成し救命法・AEDの勉強会を研修委員のもと行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。地震・水害を想定した訓練も行っており、非常食や必要備品も定期的に管理している。 | 年2回、昼夜想定の下、利用者も参加して避難訓練を実施している。また、地震及び水害を想定した訓練も年1回づつ実施している。備えとして、カップ麺や缶詰などの非常食や、携帯ラジオやカセットコンロなどの災害備品を確保している。 | コロナ禍で出来なかった、地域住民・消防署への連絡・参加に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その方のプライバシーが損なわれる事がないように十分気をつけ、介助が必要な時はご本人の気持ちに寄り添えるような言葉かけをするように心掛けている。 | さん付呼称や大声での声かけ、共用トイレのカーテン設置など、利用者を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。また、個々の特徴をとらえ、生活に寄り添った支援に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の方の思いや希望に添えるように声かけを行い、本人が自己決定しやすい言葉かけをしている。また必要な物がないかお聞きし、スタッフが代わりに買い物に行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースや体調に合わせ、本人の要望に沿えるように希望を尋ね支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の洗顔後、髪をとかし身だしなみの声かけを行っている。本人のこだわりを把握し服装もその人らしいスタイルが保てるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 嚥下問題のある方には水分にトロミをつけたり、お粥・刻み食・ミキサー食でその方に合った形態で対応している。希望食の日には時期に合わせた料理を提供し、喜ばれている。 | 毎月一回、利用者の食べたい物を提供する希望食の日や、季節のおやつを作ったり購入したりする日があり、大変喜ばれている。また、中庭でお茶会をしたり、花見弁当を食べたりする機会もあり、食事が楽しくなるよう工夫している。利用者の状態・状況に合わせて食事形態を変えたり、残存能力に応じて家事を手伝ってもらっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 月1回体重測定を行い変化がないか気をつけている。一日の摂取量を記入し把握している。水分摂取量が少ない方には脱水にならないようにスポーツドリンクやコーヒー・紅茶・ヤクルトなどお好きな物を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は声掛け誘導にて口腔ケアをして頂き、出来ない方にはブラッシングやスポンジブラシを使用し介助で行い、口腔内に食べ物が残らないようにしている。月1度の歯科衛生士による勉強会を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にて一人ひとりのサイン、排泄間隔を把握し声掛けを行っている。日中は布パンツ・紙パンツを使用し夜間はオシメを使用したりと、その方に合った工夫をしている。 | 日中は、居室のトイレと共用トイレを併用し、夜間のみオシメを使用している利用者がいる。ポータブルトイレの使用率はゼロであり、半分以上の利用者が布パンツである。日中、紙パンツだった利用者が、トイレ誘導により、布パンツになった例もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便記録・排便板を記入しその方に合わせて細かく下剤の調整を行い、朝食前に冷たい飲み物を飲んだり身体を動かしたりしている。またしっかりと水分補給をして頂くようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週3回の入浴や体調により入浴困難な方には清拭や着替えを行っている。一人ずつ入浴して頂き、入浴時には皮膚の状態に変わりがないか注意している。 | 週3回の入浴を基本とし、シャワー浴や足浴にも対応している。熱いお湯が好きな利用者は、早めの順番で入浴している。季節湯(ゆず湯)で香りを楽しみながら湯船に浸かる利用者や、入浴準備を自分で行う利用者がいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中にはなるべく身体を動かし、生活のリズムをつくれるようにしている。体調の変化に気を付けながら個別に休んで頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の処方・効能・副作用の説明をファイルし、確認出来るようにしている。服薬時には名前・日付を声に出し二人でチェックし誤薬に気をつけ、内服後は飲み込みを確認している。飲み込みが難しい方にはトロミやドリンクゼリーを使用し服用して頂いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や会話の中からその人に合ったお手伝い(洗濯たたみ・机拭き・新聞畳み)をして頂き、お礼の言葉を加えることで役割・やりがいを見つけ出している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 昨年秋には少人数で人混みを避けてのドライブや中庭でのお花見、少しでも季節を感じていただけるように紫陽花お茶会など、出かけることでいつもとは違う表情を見ることが出来、喜ばれている。 | 職員と一緒に馴染みのお寺や園芸店等にドライブへ出かけたり、家族と一緒に墓参りや髪染め、外出に出かけたりするなど、積極的に外出している。日常的には、中庭でお弁当を食べたり、お茶をしたり、玄関のツバメの巣を見に行ったりしながら、気分転換を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族の方よりお小遣いを預かり、事務所で管理している。ご希望の物がなくお聞きし職員が代わりに買い物に行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙の書ける方は、季節の絵に塗り絵をしたり、その月の行事の写真を貼り書いてもらっている。また、電話でご家族とお話しをしたり、面会に来ていただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールには利用者の方の絵・行事の写真を飾っている。季節に合わせた塗り絵や貼り絵・折り紙を職員と一緒に作って飾り、明るい環境作りに努めている。また、コロナ禍の為、換気には注意している。 | 事業所内は綺麗に整理整頓され、不快な臭いもなく、温度・湿度が適切に管理されている。また、プランターや観葉植物が多く、利用者のペースや気分に合わせて水やりしたり、鑑賞したりしている。共有スペースのテーブルや椅子の配置は、利用者同士の性格や相性などに合わせて、コーディネートされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルや椅子の配置に考慮し、数字パズルを一緒にしたり、歌番組を見ながら歌ったりと気の合う方と一緒に過ごしてもらっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が使い慣れた家具や、思い出の写真・作品(塗り絵)を飾り、安心して居心地の良い暖かい雰囲気作りに努めている。 | 馴染みの家具やマッサージ機、趣味で撮った写真や好きな本など、思いの詰まった品々が持ち込まれており、個々に居心地良い空間となっている。また、室内は広く、動線も確保されており、安全に配慮した作りとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご本人の状況に合わせ、スムーズにトイレの入りが出来たり安全に生活出来るように、職員同士話し合いながら工夫を行っている。 | | |